

都内私立大学在学生（18～29 歳）の
歯科保健行動及び口腔内状況調査
報告書（暫定版）

平成 29 年 1 月 18 日



東京歯科大学 社会歯科学講座

都内私立大学在学学生（18～29 歳）の歯科保健行動及び口腔内状況調査結果の概要

本調査の主だった項目の結果を、平成 26 年度東京都「いい歯東京」達成度調査（東京都歯科診療所調査）（以下、いい歯東京）、もしくは平成 23 年度歯科疾患実態調査（以下、歯実調）の結果と比較したところ、おおむね良好な結果を示した。概要を以下に示す。

1. アンケート概要

項目	本調査		比較データ	比較
自身の歯・口の状態について、満足している者	46.2%（18,19歳） 44.4%（20-29歳）		38.5%（いい歯東京 20-39歳）	良い
1年以内に『歯科医院』にかかった者	53.3%（18,19歳） 41.8%（20-29歳）		68.7%（いい歯東京 20-39歳）	低い
かかりつけ歯科医を決めている者	44.8%（18,19歳） 37.6%（20-29歳）		75.3%（いい歯東京 20-39歳）	低い
毎日歯みがきをする者	98.1%（18,19歳） 97.7%（20-29歳）		98.9%（歯実調 20-24歳） 95.1%（歯実調 25-29歳）	同じ
1日に歯を磨く回数 （毎日歯みがきをする者）	1回	15.5%（18,19歳） 16.3%（20-29歳）	22.5%（歯実調 20-24歳） 18.0%（歯実調 25-29歳）	同じ
	2回	51.9%（18,19歳） 57.7%（20-29歳）	55.1%（歯実調 20-24歳） 49.2%（歯実調 25-29歳）	同じ
	3回	18.0%（18,19歳） 13.8%（20-29歳）	21.3%（歯実調 20-24歳） 27.9%（歯実調 25-29歳）	低い
歯みがきをするタイミング （毎日歯みがきをする者） ※複数回答可	就寝前	56.3%（18,19歳） 59.5%（20-29歳）	—	—
	朝食後	56.3%（18,19歳） 49.2%（20-29歳）	—	—
	昼食後	7.8%（18,19歳） 9.5%（20-29歳）	—	—
週に1回以上1本ずつついでに 時間をかけて歯を磨いている者	75.7%（18,19歳） 75.5%（20-29歳）		75.6%（いい歯東京 20-39歳）	同じ
週に1回以上、デンタルフロス（糸ようじ など）や歯間ブラシを使用している者	20.5%（18,19歳） 18.5%（20-29歳）		54.0%（いい歯東京 20-39歳）	低い
週に1回以上、鏡を見て、歯や歯ぐきの様子を 自分で観察している者	53.8%（18,19歳） 49.4%（20-29歳）		42.1%（いい歯東京 20-39歳）	良い
昨年度のアンケートに回答した者	3.3%（18,19歳） 8.2%（20-29歳）		—	—
アンケート後、歯と口腔に関して意識、行動に 変化があった者	28.6%（18,19歳） 37.0%（20-29歳）		—	—

2. 口腔内調査概要

項目	本調査	比較データ	比較
平均現在歯数	28.4本（18,19歳） 29.0本（20-24歳） 28.9本（25-29歳）	28.6本（いい歯東京 20-24歳） 28.3本（いい歯東京 25-34歳）	同じ
未処置歯数	0.9本（18,19歳） 1.2本（20-24歳） 1.3本（25-29歳）	1.9本（いい歯東京20-24歳） 1.6本（いい歯東京25-34歳）	良好
歯肉に所見のない者	61.4%（18,19歳） 64.8%（20-24歳） 57.9%（25-29歳）	25.8%（歯実調 20-24歳） 31.1%（歯実調 25-29歳）	良好

都内私立大学在学学生（18～29 歳）の歯科保健行動及び口腔内状況調査 報告書

1. 調査目的

東京都では、歯科保健目標「いい歯東京」を設定し、様々な施策を展開している。その達成度評価のために、平成 26 年度に「東京都歯科診療所患者調査」を行ったところ、青年期では、歯科保健に関する知識や行動が中高年と比して低いレベルにあることが明らかとなった。また、現在歯数の少ない者では 20 歳頃に歯の喪失が加速することが示された。これらのことから高齢者の現在歯数を増加させるためには、青年期の歯科保健行動および口腔内状況の実態を把握し、歯科保健の普及啓発を行うことが必要であると考えられる。

また、歯科診療所患者調査は歯科診療所に来院した 20 歳以上の患者を対象としたが、若い世代の客体数が少ないため、次期歯科保健の指標を検討するために 20 歳前後の世代を対象に追加調査を行い、新たな歯科保健目標策定に向けた基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査方法

都内にある私立大学 1 校の在学学生（大学院生を含む）を対象に、平成 28 年 10 月 3、10、11、19、20 日の 5 日間、当該大学の構内において、アンケート調査（別添 1）と口腔内調査を実施し、あわせて普及啓発資料を配布した。

3. 調査結果

大学生 882 名（18-68 歳）からアンケート調査および口腔内調査データを得た。本調査の目的を鑑み、18-29 歳の 870 名（18、19 歳 210 名、20-29 歳 660 名）を集計の対象とした。なお、調査結果の全集計は（別添 2）のとおりである。

①属 性

【出身高校所在地内訳】

日本国内の高校出身者（以下、国内校出身）は 761 名（87.5%）、日本以外の高校出身者（以下、国外校出身）は 108 名（12.4%）、不明が 1 名であった。

東京都の高校出身者は 275 名（31.6%）、東京都の隣接県を含む 1 都 3 県（千葉県、埼玉県及び神奈川県）（以下、1 都 3 県）で 477 名（54.8%）であった。

②アンケート調査

Q1【あなたの歯・口の状態について、当てはまる項目はありますか。（複数回答可）】（図 1）

歯・口の状態について当てはまる内容は、「食べ物が歯と歯の間にはさまる」（37.5%）という回答が最も多く、次いで「歯が痛んだりしみたりする」（26.4%）、「歯や歯並びなどの見た目が気になる」（22.6%）が続いた。この結果は、平成 26 年度東京都「いい歯東京」達成度調査（以下、いい歯東京）における 20-39 歳の「食べ物が歯と歯の間にはさまる」（42.8%）、「歯や歯並びなどの見た目が気になる」（31.3%）、「歯が痛んだりしみたりする」（26.8%）と同様の傾向が認められた。

Q2【あなたは、御自身の歯・口の状態について、どのように感じていますか。】（図2）

歯や口腔の状態に満足している者は44.7%であり、いい歯東京の38.5%（20-39歳）と比較して良好な値を示した。

一方、Q1で当てはまる項目はないと回答したもののQ2でやや不満と回答した者は16.4%、不自由や苦痛を感じていると回答した者はいなかった。Q1で当てはまる項目を選択したもののQ2でほぼ満足していると回答した者が34.2%であった。

Q3【これまでに、歯の矯正治療を受けたことがありますか。】（図3）

矯正治療を受けたことがある、もしくは現在受けている者は30.7%であった。また、男女で比較したところ、女性40.0%、男性23.4%と、女性の方が高い値を示した。

Q4【最近『歯科医院』にかかれたのはいつですか。】（図4）

1年以内に歯科医院にかかった者は44.0%であった。いい歯東京における類似項目では、「定期健診に1年以内に行った」が59.0%（20-39歳）であり、本調査の方が低い値を示した。

なお、8020運動を知っていると回答した者で1年以内に歯科医院にかかったと回答した者は48.5%であった。

Q5【その際にどのような処置を受けましたか（複数回答可）】（図5）

最も多かった回答は虫歯の治療（40.1%）で、次いで歯石除去・歯面清掃（31.7%）、定期健診（30.3%）という回答が続いた。

Q6【かかりつけ歯科医を決めていますか。】（図6）

かかりつけ歯科医を決めている者は39.3%であり、いい歯東京の75.3%（20-39歳）と比較して少なかった。東京都の高校出身者では50.2%、1都3県では50.1%であったのに対し、外国の高校出身者を除く1都3県以外では29.9%、外国では15.7%であった。

なお、8020運動を知っていると回答した者でかかりつけ歯科医があると回答した者は46.3%であった。

Q7【歯をみがく頻度はどれくらいですか。】（図7、8）

毎日歯をみがく者は97.8%で、平成23年歯科疾患実態調査（以下、歯実調）の98.9%（20-24歳）、95.1%（25-29歳）と同様の値を示した。また、みがく回数は1日平均2.0回で、1回が16.1%、2回が56.3%、3回が16.5%であった。これは歯実調の1回：22.5%（20-24歳）／18.0%（25-29歳）、2回：55.1%（20-24歳）／49.2%（25-29歳）、3回：21.3%（20-24歳）／27.9%（25-29歳）と同様の傾向を示したものの、3回みがく者は少なかった。

また、みがくタイミング（複数回答可）では就寝前58.5%と朝食後50.7%は高い値を示したが、昼食後は9.1%と低かった。

Q8【歯をみがくとき、フッ化物配合歯みがき剤を使っていますか。】（図9）

フッ化物配合歯みがき剤を使用していると回答した者は19.0%であり、いい歯東京の33.7%（20-39歳）と比較して低い値を示した。

Q9【歯をみがくときは、1本ずついいねいに時間をかけていますか。】（図 10）

週に1回以上、丁寧に歯みがきをする者は74.5%であり、いい歯東京の75.6%（20-39歳）とほぼ同じ値であった。

Q10【デンタルフロス（糸ようじなど）や歯間ブラシを使っていますか。】（図 11）

フロスや歯間ブラシを週に1回以上使っている者は18.7%であり、いい歯東京の54.0%（20-39歳）と比較して低い値を示した。

Q11【鏡を見て、歯や歯ぐきの様子を自分で観察することがありますか。】（図 12）

週に1回以上、鏡を見て歯みがきをする者は49.8%であり、いい歯東京の42.1%（20-39歳）と比較して良好な値を示した。

Q12【喫煙習慣はありますか。】（図 13）

喫煙している者は5.1%であり、平成28年度JT全国喫煙者率調査の男性27.2%、女性8.9%（20-29歳）と比較して低い値を示した。

Q13【喫煙は歯ぐきの病気（歯周病）を進行させる要因の1つですが、あなたはこのことをご存じでしたか】（図 14）

喫煙と歯周病の関係を知っている者は54.7%であり、いい歯東京の53.7%（20-39歳）と同様の値を示した。

なお、8020運動を知っていると回答した者で喫煙と歯周病の関係を知っていると回答した者は60.0%であった。

Q14【糖尿病だと歯周病にもかかりやすく、歯周病が糖尿病に悪影響を及ぼすことをご存じでしたか】（図 15）

糖尿病と歯周病の関係を知っている者は25.7%であり、いい歯東京の36.3%（20-39歳）と比較して低い値を示した。

なお、8020運動を知っていると回答した者で糖尿病と歯周病の関係を知っていると回答した者は34.1%であった。

Q15【口の中の細菌を誤嚥（飲み込んだものが肺に入ること）することでおこる肺炎が、高齢者の死因となることをご存じでしたか。】（図 16）

誤嚥性肺炎が高齢者の死因となることを知っている者は24.5%であり、いい歯東京の21.8%（20-39歳）と同様の値を示した。

なお、8020運動を知っていると回答した者で誤嚥性肺炎が高齢者の死因となることを知っている者と回答した者は35.2%であった。

Q16【あなたは「8020（ハチマルニイマル）運動」という言葉を知っていましたか。】（図 17）

8020（ハチマルニイマル）を知っている者は31.0%であり、いい歯東京の31.7%（20-39歳）と

同様の値を示した。東京都の高校出身者では 26.5%、1 都 3 県では 29.8%であったのに対し、外国の高校出身者を除く 1 都 3 県以外では 43.3%、外国では 2.8%であった。

Q17【永久歯は、「親知らず」が 4 本すべて生えると全部で 32 本です。あなたの歯の数は、現在何本ですか。】（図 18）

現在歯数と自己評価の差が 1 歯以内の割合は 27.1%で、いい歯東京の 39.2%と比較して低い値を示した。すなわち、自分の歯の本数を把握している者が少ない傾向が認められた。

なお、8020運動を知っていると回答した者で現在歯数と自己評価の差が 1 歯以内の割合は 30.7%であった。

Q18【昨年度、東京都が大学で実施した同様のアンケートにご回答いただいていますか。】（図 20）

昨年のアンケートに回答した者は 7.0%で、そのうちアンケート後に行動変容があったと回答した者は 36.1%であった。また、変化のあった行動の具体例として「丁寧に歯をみがくようになった」、「歯間ブラシを使うようになった」、「歯医者に行った」等が挙げられた。

③口腔内調査（図 21）

【現在歯数】

現在歯数は平均 28.8 本（22-32 本）であり、いい歯東京の 28.6 本（20-24 歳）、28.3 本（25-34 歳）と同様の値を示した。また、現在歯数が 28 本以上の者は 806 名（92.6%）であった。

年齢別で見た場合、客体数の多かった 18-24 歳の現在歯数の 10 パーセンタイル、25 パーセンタイル、50 パーセンタイル、75 パーセンタイル、90 パーセンタイル値をみると、24 歳で 90 パーセンタイル値に低下がみられた（表 2-1）。しかしながら、24 歳では矯正治療経験者の割合が多かったため、矯正治療に伴う便宜抜歯の影響を除くため、矯正治療経験者で 27 歯以下の者を除外して集計を行ったところ、現在歯数の減少はみられなくなった（表 2-2）。

【未処置歯数】

未処置歯数は平均 1.1 本（0-15 本）であり、いい歯東京の 1.9 本（20-24 歳）、1.6 本（25-34 歳）と比較して良好な値を示した。また、未処置歯が 1 本以上ある者は 352 名（40.5%）であった。

【歯肉の所見】

歯肉に所見のない者（歯肉の炎症及び歯石の沈着がない者）は 554 名（63.6%）であり、歯実調の 25.8%（20-24 歳）、31.1%（25-29 歳）と比較して良好な値を示した。歯垢の付着のない者は 753 名（86.6%）であった。また、歯石の沈着がない者は 599 名（68.9%）であり、歯実調の 47.2%（20-24 歳）、48.1%（25-29 歳）と比較して良好な値を示した。

【粘膜疾患】

口腔粘膜に、さらに詳しい検査が必要と思われる所見がある者が 2 名（0.2%）いたため、専門医療機関への受診勧奨をした。

未処置歯、歯肉の所見ともに無かったものは 328 名（37.7%）であった。

④ その他

個別のヒアリングから得た知見を以下に示す。

- ・ 遠方出身の者、特に国外校出身は大学入学後に歯科を受診していないものが散見された。
- ・ 歯みがきに関して、「歯をみがける場所がないために昼食後にみがけない」という意見が数人から聴取された。

4. 考察

今回の結果を、平成 26 年度東京都「いい歯東京」達成度調査もしくは平成 23 年度歯科疾患実態調査と比較したところ、概ね良好な結果が得られた。対照としたデータが過去のものであり、新規調査結果との比較検討も必要であろう。また、私立大学 1 校を対象としたため、18-29 歳を代表しているとも言い難いが、870 名の客体数から傾向をうかがうことは可能であると考ええる。

自分の歯・口の状況に満足している者は比較的多く、また、実際に口腔内状況も日常の歯科保健行動も良好であった。デンタルフロスなどの補助具の使用が少ないのは、対照データより年齢が若いことに加え、口腔内状況が良好であることを反映していると考えられる。

ただし、歯科受診行動は低い傾向が示された。自分の歯・口の状況に対する満足度が高いことからすれば当然とも考えられるが、かかりつけ歯科医を持つものが少ないこととあわせ、定期的な歯科医院受診の習慣がこの時期に形成されていないことは問題と考える。特に地方出身者は元々のかかりつけ歯科医が地元であり、大学近隣で新たに歯科医院を受診する機会がないことがうかがわれた。大学近隣の歯科診療所を紹介したリーフレットをより多くの学生に継続して配布するとともに、医療機関を探す際に、条件検索が可能な東京都医療機関案内「ひまわり」等を周知するなどの取組が、大学の近く、または現在の住所地でかかりつけ歯科医を決め、定期的な歯科受診を促す有効な手段であると考えられる。

歯みがきに関する項目、歯肉の状態は、歯実調と比較して良い結果を示したことから、セルフケアの習慣は確立できていると考えられるが、歯石の沈着は 30.8%にみられた。歯肉に所見が認められなくても歯石や歯垢の付着が認められる場合、この時期から歯磨き指導を受ける必要があると考える。特に大学では歯科健診の実施が義務づけられていないことから、かかりつけ歯科医を持ち、定期的な受診が歯周病の予防に寄与すると考える。一方、日本以外の高校出身者では未処置歯数、歯石の付着で大きな値を示した。これは入学前の口腔衛生状態の不良と入学後の歯科受診行動を反映していると考えられる。

1 日 3 回歯をみがく者が少なかったのは、昼食後に歯みがきをしている者が少なかったことによると思われる。その理由として、大学で歯みがきできる場所がないとの声があった。歯科保健は学修環境のみならず、就職活動や将来の就業環境へも大きな影響を持ち、高齢期には誤嚥性肺炎という生命に関わる問題にもつながる。歯みがきスペースを作るなど、歯みがきをしやすい環境を整備することで、学生の歯科保健行動及び口腔内の状況のさらなる向上に寄与するものと考ええる。

現在市場に出回っている歯磨剤は、出荷ベースで 9 割以上がフッ化物配合と言われている。したがって、多くの者がフッ化物配合歯磨剤を使用していることは想像に難くないが、意識して使用している者が 2 割に満たず、非常に少ない傾向が示された。意識せずともう蝕予防の薬効は期待できるものの、歯科保健の観点からは、フッ化物によるう蝕予防効果をより普及すべきと考える。近年、高齢になっても自分の歯が残ることから、高齢者のう蝕が問題となってきた。その他にも、糖尿病と歯周病の関係や、直接の死因になることもある誤嚥性肺炎と口腔清掃との関係についても、まだ十分に知識が普及しているとは言い難い状況であった。現在歯数が多いほど医科の医療費が低いというデータも示されているように、健全な歯は全身の健康にもつながるものである。

8020 運動を知っていると回答した者は、1 年以内に歯科医院にかかった、かかりつけ歯科医を持つ、喫煙と歯周病の関係を知っている、糖尿病と歯周病の関係を知っている、誤嚥性肺炎が高齢者の死因となることを知っている、現在歯数と自己評価の差が 1 歯以内である割合が高かった。8020 運動が歯科保健に関する知識・行動の指標たり得ることを示していると考ええる。東京都の高校出身者は、1 都 3 県や 1 都 3 県以外の道府県と比較し、8020 運動の認知度が低いことが明らかとなった。今後、若い世代に向けたより一層の 8020 運動の普及啓発とあわせて、歯科保健に関する知識の向上を図ることは、学生の生涯に渡る健康、すなわち半世紀後の 8020 に寄与するものと考ええる。

	男性	女性	不明	全体
18歳	24	41		65
	4.9%	10.6%		7.4%
19歳	65	81		146
	13.2%	20.9%		16.6%
20歳	102	78	1	181
	20.8%	20.1%	33.3%	20.5%
21歳	95	69		164
	19.3%	17.8%		18.6%
22歳	92	49	1	142
	18.7%	12.6%	33.3%	16.1%
23歳	53	29		82
	10.8%	7.5%		9.3%
24歳	28	25		53
	5.7%	6.4%		6.0%
25歳	12	4		16
	2.4%	1.0%		1.8%
26歳	10	3		13
	2.0%	0.8%		1.5%
27歳	0	3		3
	0.0%	0.8%		0.3%
28歳	2	2		4
	0.4%	0.5%		0.5%
29歳	0	1		1
	0.0%	0.3%		0.1%
30歳以上	8	3		11
	1.6%	0.8%		1.2%
不明	0	0	1	0
	0.0%	0.0%	33%	0.0%
合計	491	388	3	882

表 1. 対象者の年齢、性別

図 1. Q1：あなたの歯・口の状態について、当てはまる項目はありますか。（複数回答可）

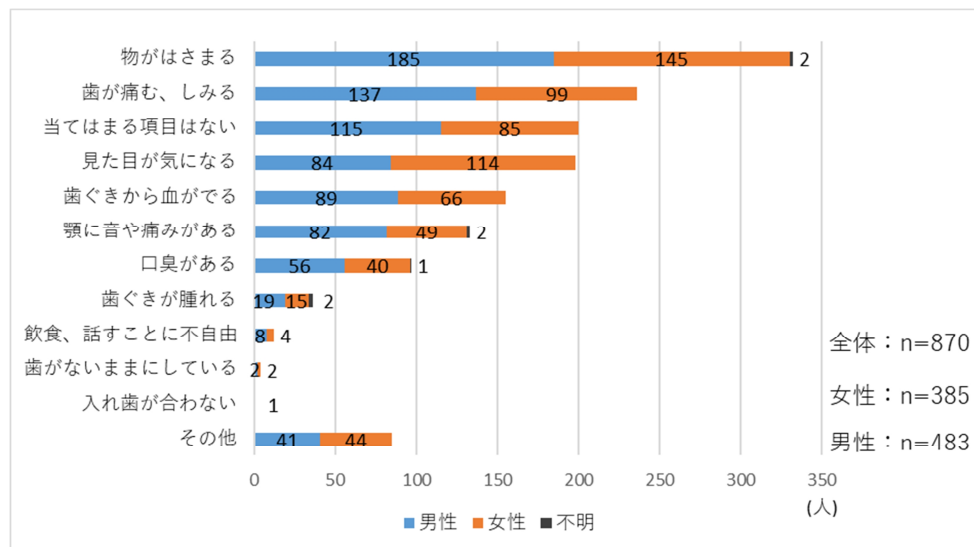


図 2. Q2：あなたは、御自身の歯・口の状態について、どのように感じていますか。

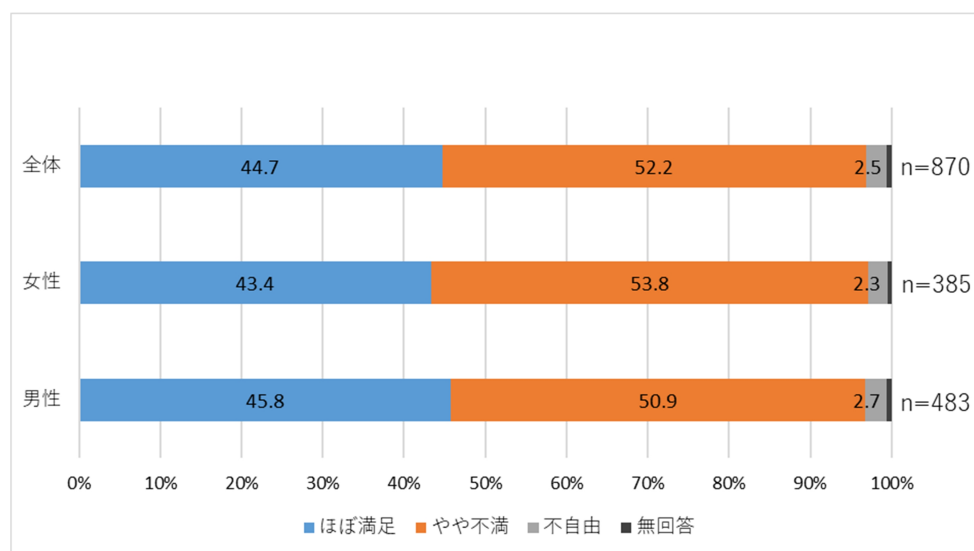


図 3. Q3：これまでに、歯の矯正治療を受けたことがありますか。

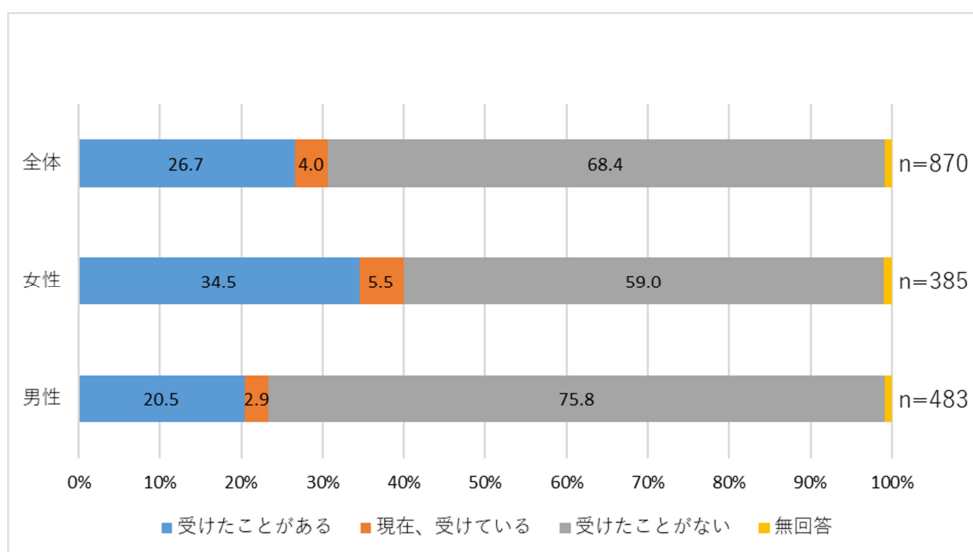


図 4. Q4：最近『歯科医院』にかかれたのはいつですか。

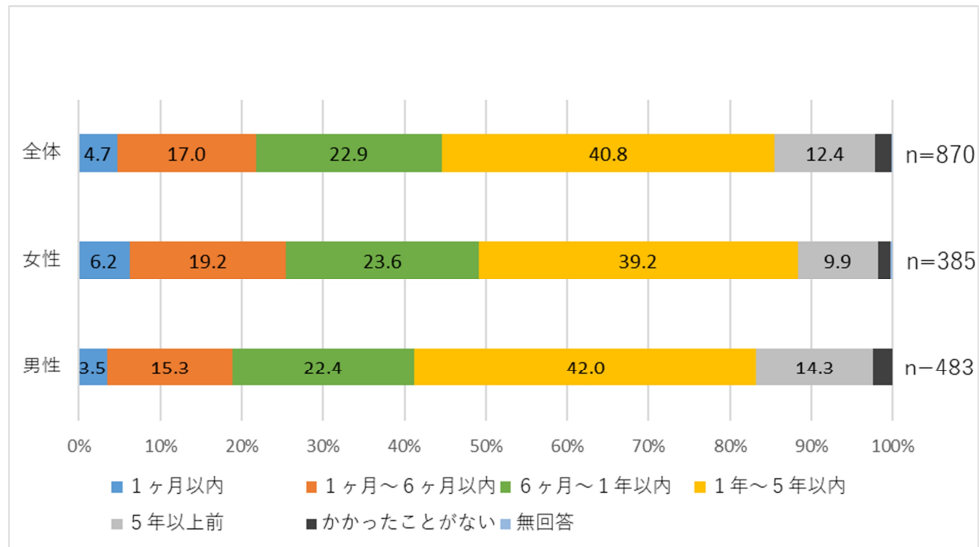


図 5. Q5：その際にどのような処置を受けましたか。（複数回答可）

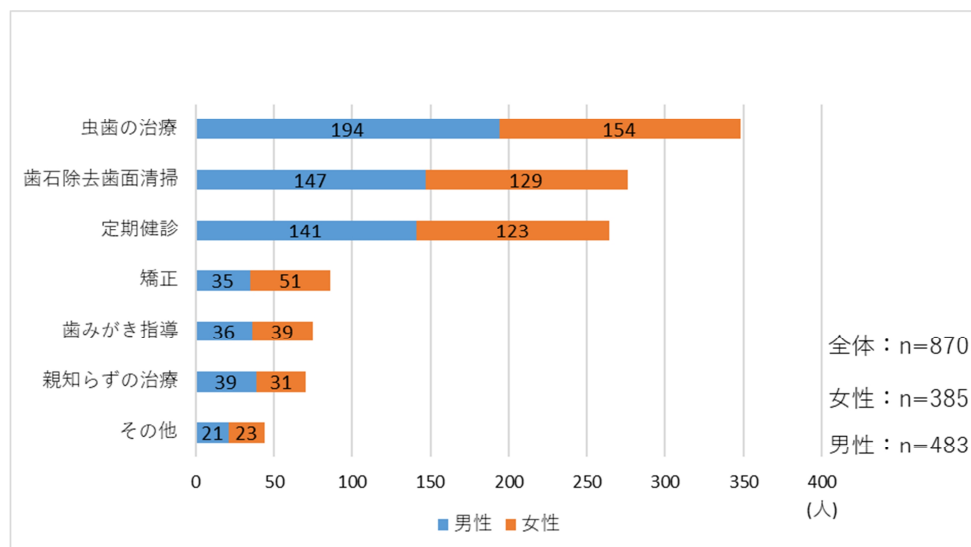


図 6. Q6：かかりつけ歯科医を決めていますか。

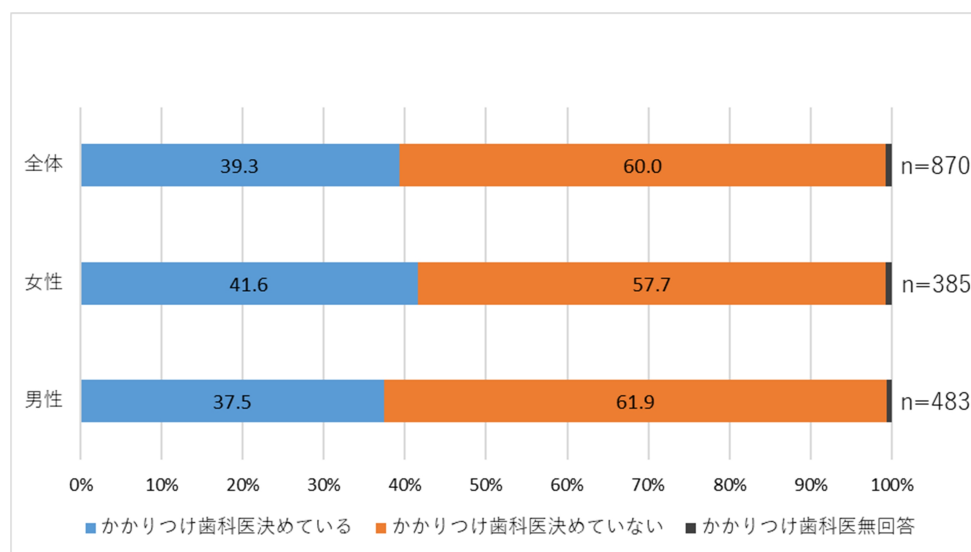


図 7. Q7：歯をみがく頻度はどれくらいですか。

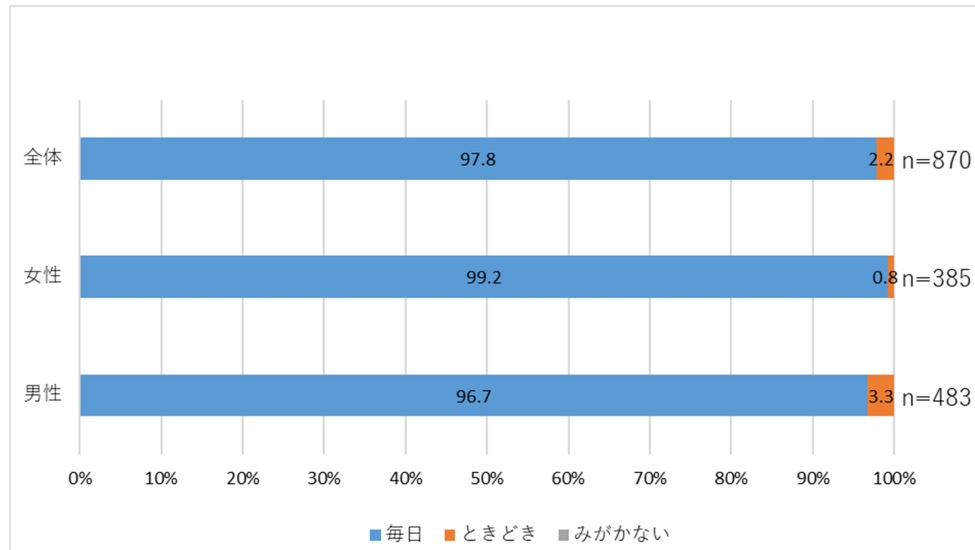


図 8. Q7：歯をみがく頻度はどれくらいですか。(複数回答可)

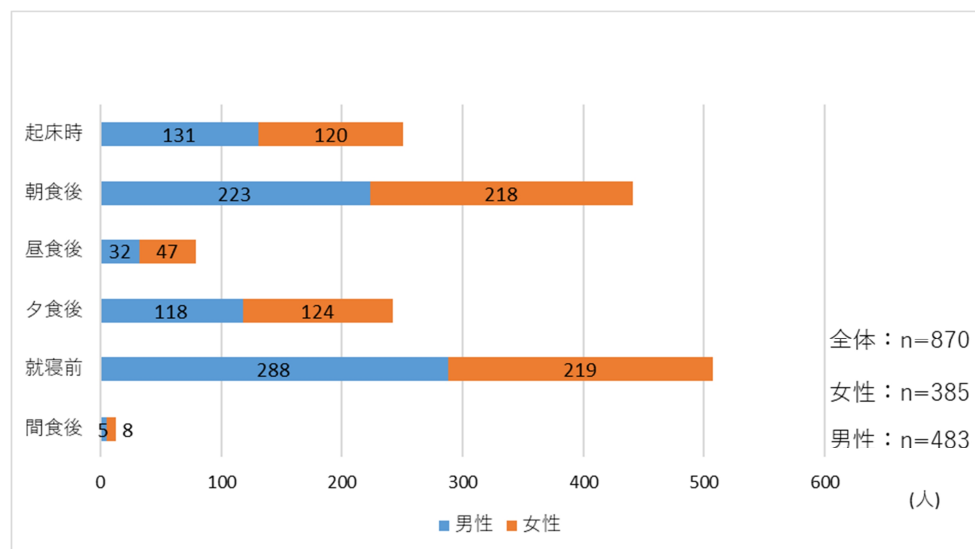


図 9. Q8：歯をみがくとき、フッ化物配合歯みがき剤を使っていますか。

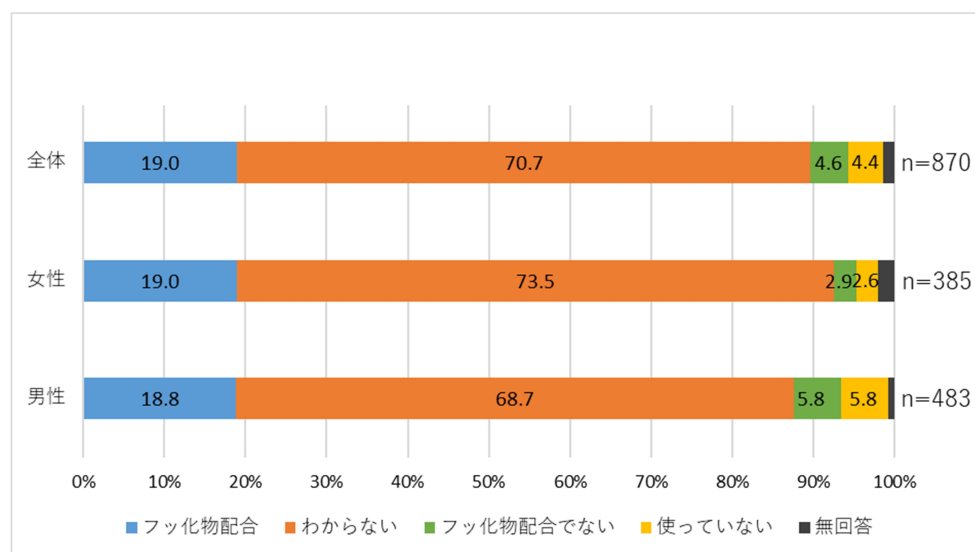


図 10. Q9：歯をみがくときは、1本ずついいねいに時間をかけていますか。

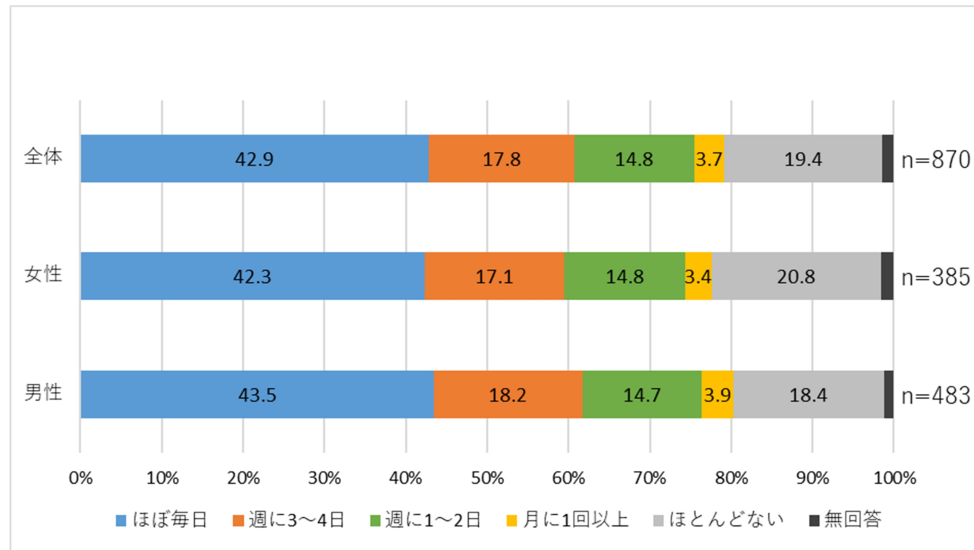


図 11. Q10：デンタルフロス（糸ようじなど）や歯間ブラシを使っていますか。

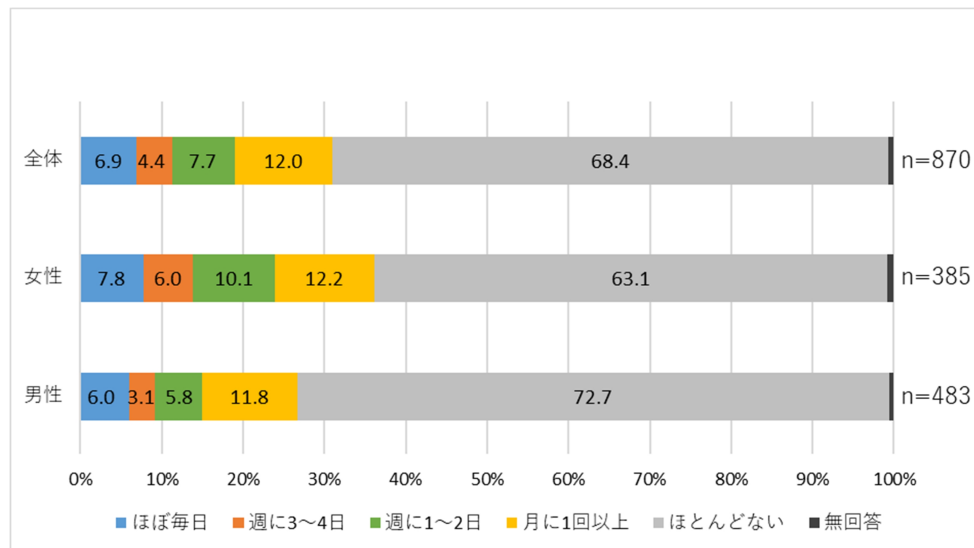


図 12. Q11：鏡を見て、歯や歯ぐきの様子を自分で観察することがありますか。

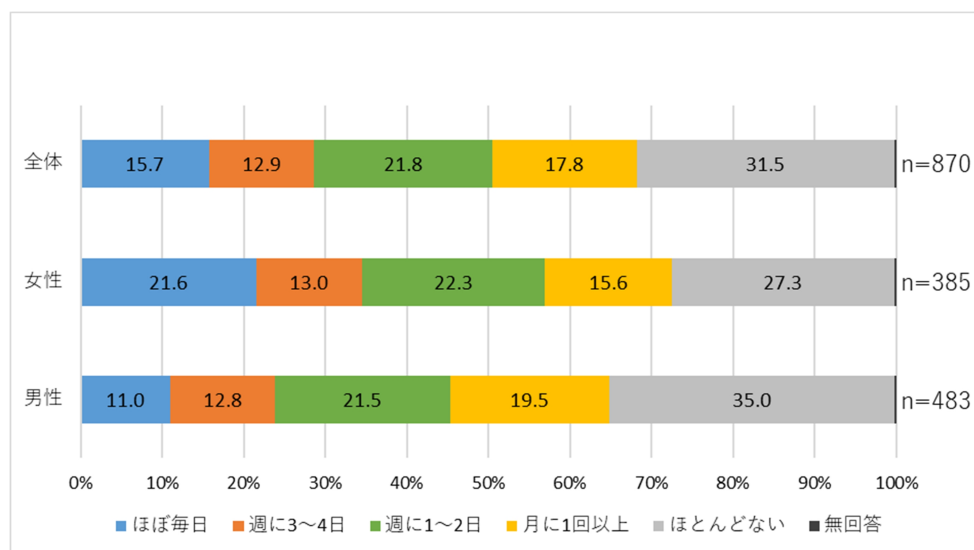


図 13. Q12：喫煙習慣はありますか。

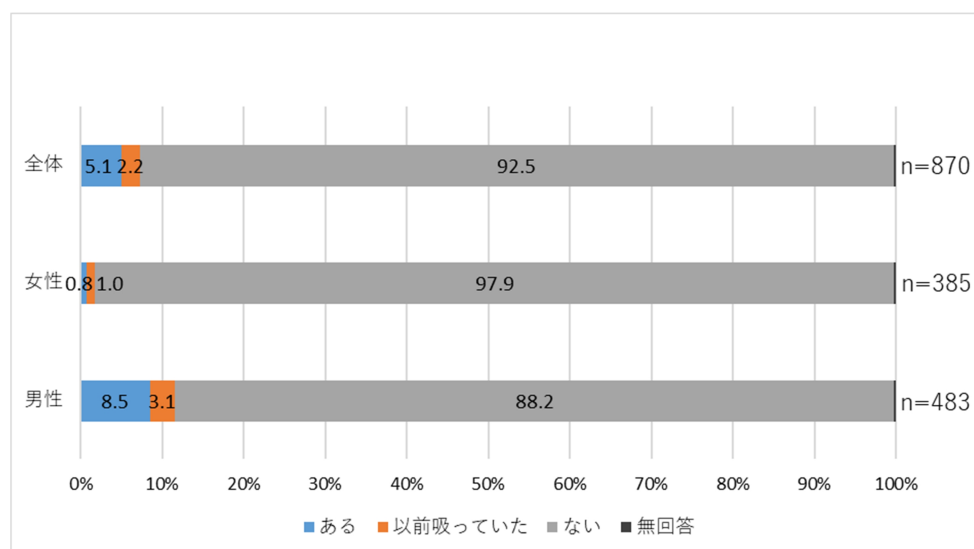


図 14. Q13：喫煙は歯ぐきの病気（歯周病）を進行させる要因の1つですが、あなたはこのことを知っていましたか。

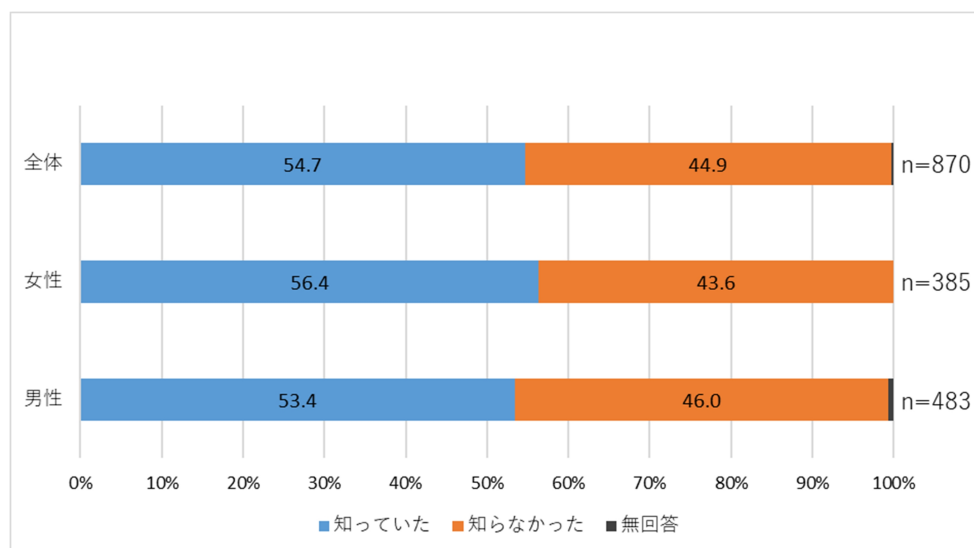


図 15. Q14：糖尿病だと歯周病にもかかりやすく、歯周病が糖尿病に悪影響を及ぼすことを、知っていましたか。

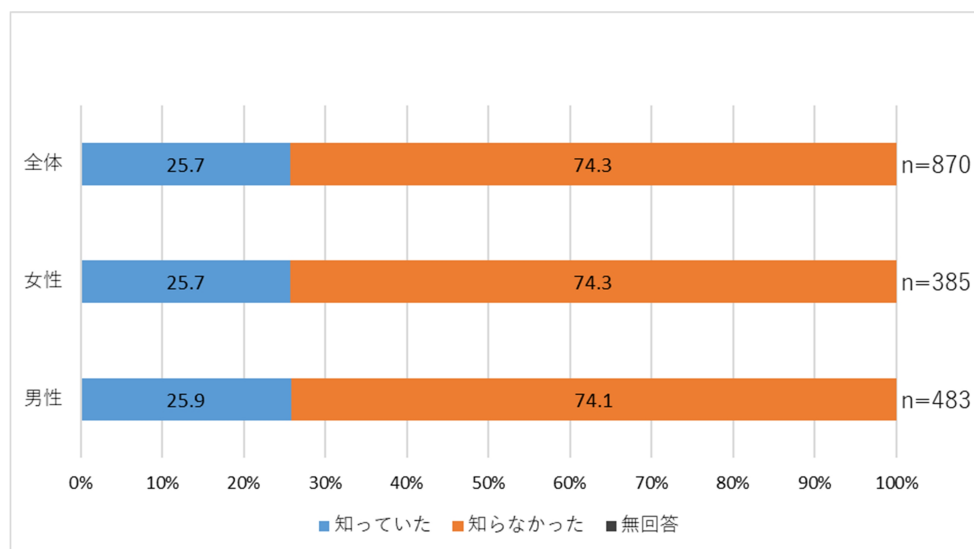


図 16. Q15：口の中の細菌を誤嚥（飲み込んだものが肺に入ること）することでおこる肺炎が、高齢者の死因となることを知っていましたか。

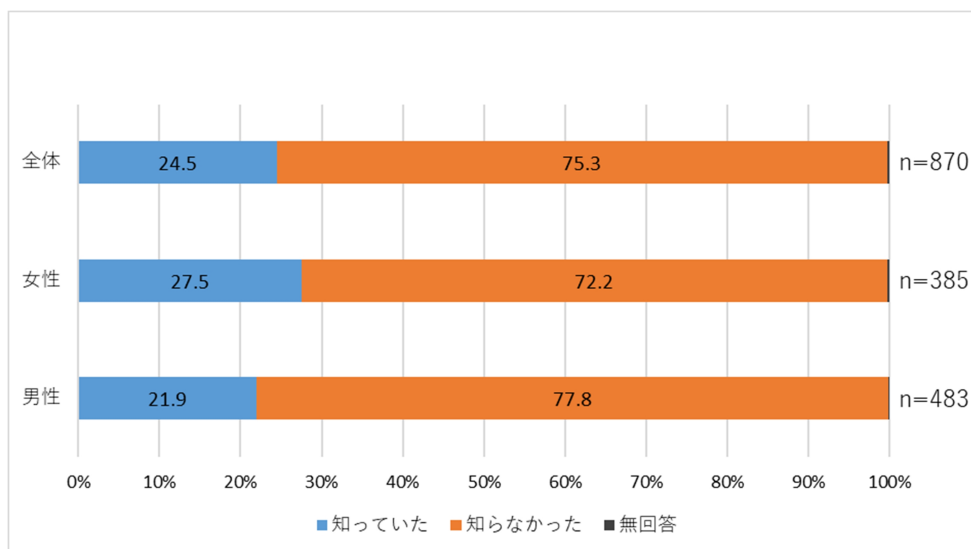


図 17. Q16：あなたは「8020（ハチマルニイマル）運動」という言葉を知っていましたか。

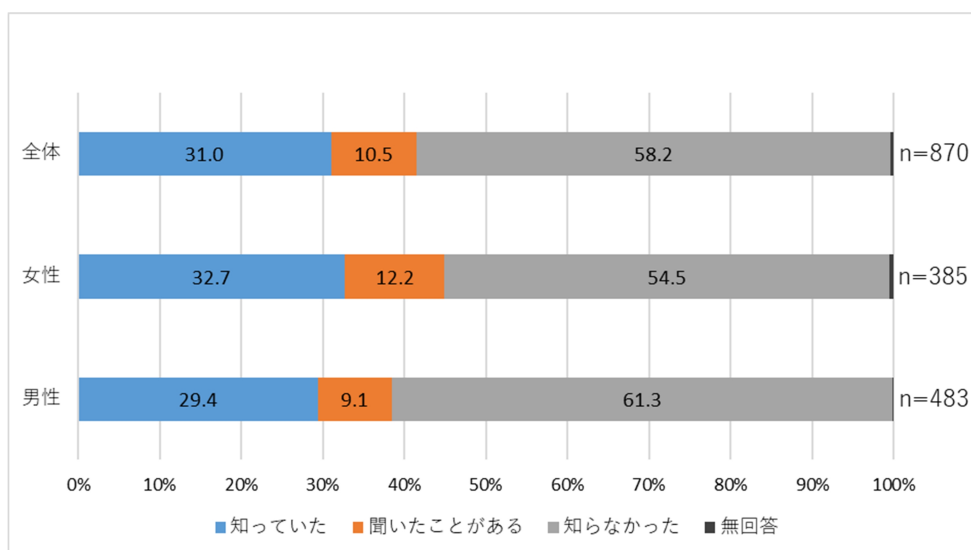


図 18. 現在歯数と自己評価による歯の本数の差（Q17：永久歯は、「親知らず」が4本すべて生えたと全部で32本です。あなたの歯の数は、現在何本ですか。）

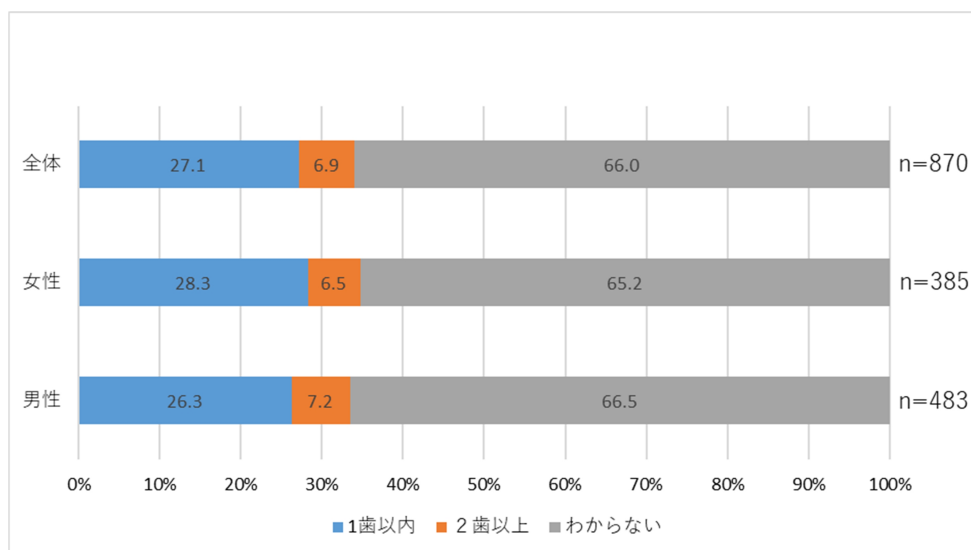


図 19. Q18：昨年度、東京都が大学で実施した同様のアンケートにご回答いただいていますか。

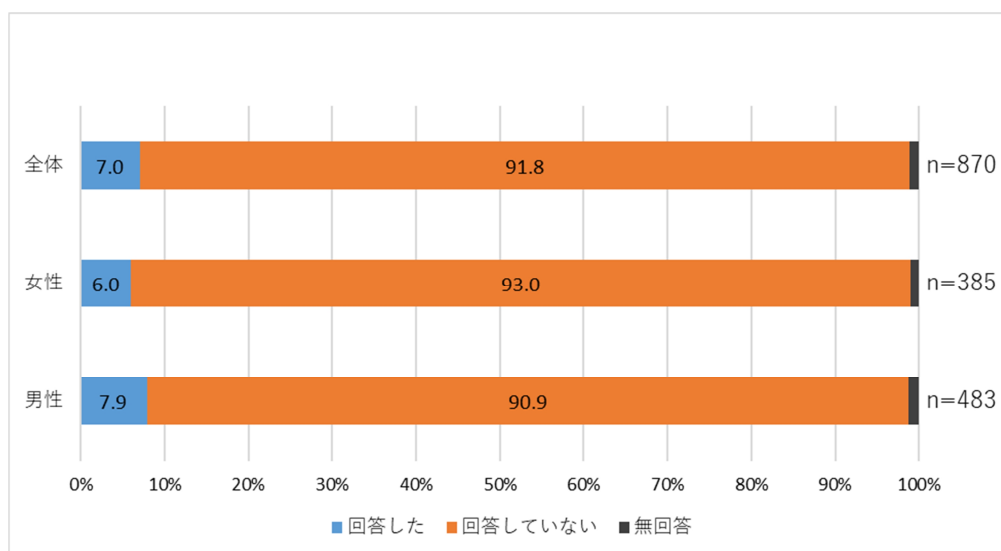


図 20. Q18-1：アンケート後、歯と口腔に関して意識、行動に変化がありましたか。

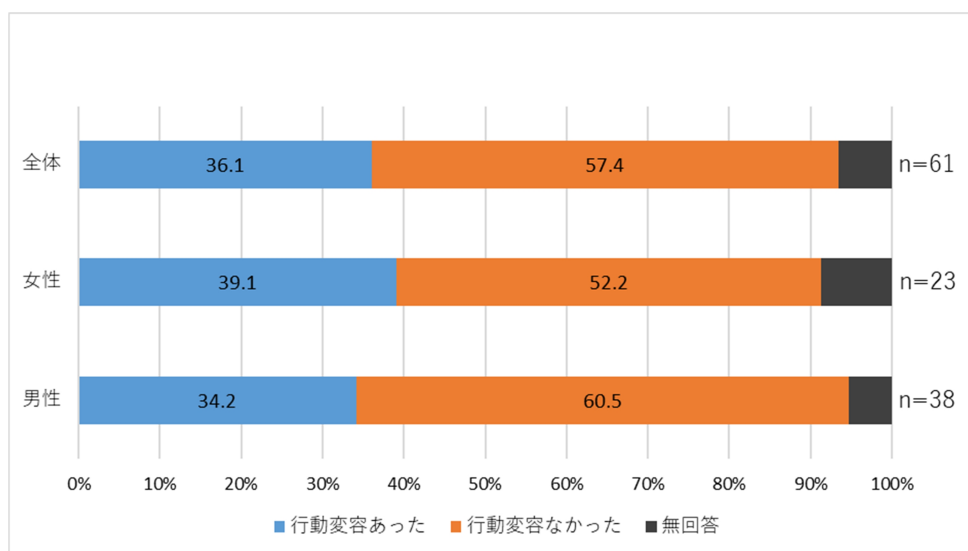


図 21. 口腔内調査

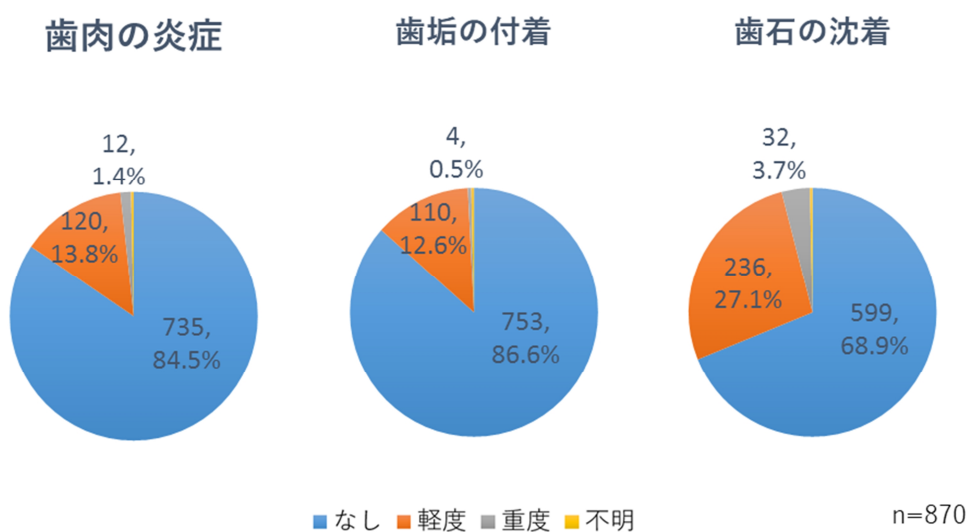


表 2-1. 18-24 歳の年齢別現在歯数パーセンタイル値

年齢	10パーセンタイル	25パーセンタイル	50パーセンタイル	75パーセンタイル	90パーセンタイル	n	矯正治療経験者
18	30.5	28.75	28	28	27	64	28.1%
19	31	29	28	28	28	146	39.0%
20	32	30	28	28	28	181	29.8%
21	32	30	28	28	28	164	27.4%
22	32	30	28.5	28	28	142	23.9%
23	32	31	29	28	28	82	30.5%
24	32	30	28	28	24.8	53	45.3%

表 2-2. 18-24 歳（矯正治療未経験者）の年齢別現在歯数パーセンタイル値

年齢	10パーセンタイル	25パーセンタイル	50パーセンタイル	75パーセンタイル	90パーセンタイル	n
18	30.8	29	28	28	28	61
19	31	29	28	28	28	137
20	32	30	28	28	28	173
21	32	30	28	28	28	156
22	32	30	29	28	28	137
23	32	31	29	28	28	77
24	32	30.75	29	28	28	44

歯と口腔の健康に関するアンケート

このアンケートは、皆様の日常の歯科保健習慣などをお聞きすることにより、今後の都民の歯の健康づくり対策の参考とさせていただきますことを目的として実施するものです。調査結果は全体として集計しますので、個人にご迷惑をおかけすることはありません。ご協力をよろしくお願いします。

学部	学部	性別	男・女	年齢	才	出身高校の所在地	都・道・府・県
----	----	----	-----	----	---	----------	---------

* 外国の方は国名を記載してください。

当てはまる番号に○をつけてください

1 あなたの歯・口の状態について、当てはまる項目はありますか。（複数回答可）

- (1)歯が痛んだりしみたりする (2)歯ぐきから血がでる (3)歯ぐきが腫れる (4)口臭がある
 (5)食べ物が歯と歯の間にはさまる (6)噛む、味わう、飲み込む、話すことに不自由がある
 (7)歯や歯並びなどの見た目が気になる (8)入れ歯が合わない
 (9)口を大きく開け閉めしたとき、音がしたり、痛みを感じることもある
 (10)歯がないままにしている (11)当てはまる項目はない (12)その他 ()

2 あなたは、御自身の歯・口の状態について、どのように感じていますか。

- (1)ほぼ満足している (2)やや不満だが日常生活には困らない (3)不自由や苦痛を感じている

3 これまでに、歯の矯正治療を受けたことがありますか。

- (1)受けたことがある (2)現在、受けている (3)受けたことがない

4 最近『歯科医院』にかかれたのはいつですか。

- (1)1ヶ月以内 (2)1ヶ月～6ヶ月以内 (3)6ヶ月～1年以内 (4)1年～5年以内 (5)5年以上前
 (6)かかったことがない(理由:)

5 その際にどのような処置を受けましたか。（複数回答可）

- (1)虫歯の治療 (2)定期健診 (3)歯みがき指導 (4)歯石除去・歯面清掃 (5)矯正 (6)親知らずの治療
 (7)その他 ()

6 かかりつけ歯科医を決めていますか。

- (1)決めている (2)決めていない

7 歯をみがく頻度はどれくらいですか。

- (1)毎日(起床時・朝食後・昼食後・夕食後・就寝前・間食後・その他())
 (2)ときどき (3)みがかない

8 歯をみがくとき、フッ化物配合歯みがき剤を使っていますか。

- (1)フッ化物配合歯みがき剤を使っている
 (2)歯みがき剤は使っているが、フッ化物配合歯みがき剤かどうかはわからない
 (3)フッ化物配合でない歯みがき剤を使っている
 (4)歯みがき剤は使っていない

9 歯をみがくときは、1本ずついいいに時間をかけていますか。

- (1)ほぼ毎日 (2)週に3～4日 (3)週に1～2日 (4)月に1回以上 (5)ほとんどない

10 デンタルフロス(糸ようじなど)や歯間ブラシを使っていますか。

- (1)ほぼ毎日 (2)週に3～4日 (3)週に1～2日 (4)月に1回以上 (5)ほとんどない

11 鏡を見て、歯や歯ぐきの様子を自分で観察することがありますか。

- (1)ほぼ毎日 (2)週に3～4日 (3)週に1～2日 (4)月に1回以上 (5)ほとんどない

12 喫煙習慣はありますか。

- (1)ある (2)以前吸っていたが今は吸っていない (3)ない

13 喫煙は歯ぐきの病気(歯周病)を進行させる要因の1つですが、あなたはこのことをご存じでしたか。

- (1)知っていた (2)知らなかった

14 糖尿病だと歯周病にもかかりやすく、歯周病が糖尿病に悪影響を及ぼすことを、ご存じでしたか。

- (1)知っていた (2)知らなかった

15 口の中の細菌を誤嚥(飲み込んだものが肺に入ること)することでおこる肺炎が、高齢者の死因となることをご存じでしたか。

- (1)知っていた (2)知らなかった

16 あなたは「8020(ハチマルニイマル)運動」という言葉を知っていましたか。

- (1)知っていた (2)聞いたことがある (3)知らなかった

17 永久歯は、「親知らず」が4本すべて生えたと全部で32本です。あなたの歯の数は、現在何本ですか。

分からない方は「？」と記入してください。 本

18 昨年度、東京都が大学で実施した同様のアンケートにご回答いただいていますか。

- (1)はい (2)いいえ

18-1 (1)を選んだ方に伺います。アンケート後、歯と口腔に関して意識、行動に変化がありましたか。

- (1)あった(内容:) (2)なかった

御協力ありがとうございました。

口 腔 内 調 査 票

現在歯・喪失歯の状況（喪失歯のうち、補綴処置の不要な歯には×を記入）

	8	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8	
右																		左
	8	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8	

1 健全歯数（／）	2 未処置歯数（○）	3 処置歯数（○）	4 現在歯数（1+2+3）	5 要補綴歯数（△）	6 欠損補綴歯数（⊗）
-----------	------------	-----------	---------------	------------	-------------

歯周炎の状況

- 1 歯肉の炎症 （－, ＋, ++）
- 2 歯垢付着状態（－, ＋, ++）
- 3 歯石付着状態（－, ＋, ++）

粘膜疾患の要精検

（－, ＋）

特記事項

根面露出 ・ 楔状欠損 ・ 歯列咬合 ・ 顎関節 ・ 粘膜

口腔内診査結果のお知らせ

診査日 平成28年10月 日

様

あなたの歯の数は_____本です

診査の結果、お口の中の状態は以下のとおりでした。

1 お口の中は良好な状態です

▶ これからも定期健診を受けながら、お口の健康を保っていくよう心がけてください。

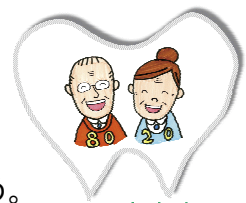
2 軽い歯肉の炎症が認められます

▶ 歯の磨き方等の指導を受け、状態の改善を図りましょう。

3 さらに詳しい検査や治療が必要な状態です

- a 歯石除去等（併せて歯周病改善のための指導を受けることも必要です）
b 歯の治療
c 粘膜疾患の検査
d その他（ ）

▶ 主治の歯科医等に相談し、早めにお口の健康の回復を図りましょう。



いい歯東京

東京都福祉保健局